

寒冷地形談話会通信

92年第 5号 92/09/03発行

事務局：東京学芸大学・地理学教室・小泉研究室内

〒184 小金井市貫井北町4-1-1

1. サマースクールの報告

8/17～19に山形県月山においてサマースクールが行われました。以下はその報告です。案内をして頂いた先生方、本当にありがとうございました。

8月17日10時、月山八合目には前日からくるまで入っていた人6名、当日バスできた人3名、そして村上駅から自転車で来た猛者が1名。「92年夏の学校 オブショナルツアー」に参加したのは総勢10名であった。この日は荻谷愛彦氏（都立大・院）の案内でまず、月山の植生帯の垂直分布を観察し、亜高山帯針葉樹林を全く欠く月山において、バラモミ沢源頭部にのみオオシラビソ小林分が成立している理由を考えながら仏生池まで巡検を行った。夜は満点の星空と庄内平野の夜景、日本海に浮かぶイカ釣り船の漁火を肴に楽しいひとときを過ごした。

次の日は途中、佛生小屋のご主人に麦茶をご馳走になってから一路山頂をめざした。そして、集合時間の12時には月山神社の前には31名もの人が集まり、中には遠路はるばる関西から駆けつけた方もいて大規模な巡検となった。案内は主に大雪城雪渓における晩氷期以降の斜面発達とそれに関わった古環境変遷について、荻谷氏が修士論文の調査に基づいて説明を進め、折りにふれ、五百沢智也氏、小林 詢氏（信州大）、土屋 廉氏から氷河地形や残雪凹地に関するそれぞれの研究成果について説明していただいた。また、土壌断面の前では大角氏（林業試験場東北支所）から高山土壌に関する説明を受けた。ガスも多く、気温もかなり低下していたが、有意義な一日であった。夕食後の食卓には月山神社よりいただいたお神酒2本とウイスキー1本をはじめ、今回の夏の学校には参加できなかった山川氏からの差し入れのウイスキーや参加者が持ち寄ったお酒、頂上小屋から頂いた枝豆、下から持ち上げた西瓜などが所狭しと並び、消灯時間まで議論に花が咲いた。

最終日は牛首雪渓において小林氏に植生の同心円構造について説明していただいた後、四谷川源流で五百沢氏が発見した氷成堆積物について議論が交わされた。月山の氷河地形についてはまだ謎が多いが、今後の詳細な調査に期待がかかるだろう。この後ほとんどの参加者は姥沢に下った。姥沢からは真夏にも関わらずひんやりとした霏霏気を醸し出しているブナ林の中の遊歩道を県立自然博物館まで歩き、博物館を見学した後に解散となった。こうして、いま、我々の眼前に広がる月山の風景がどのような歴史を経てできあがってきたのか、それを作り出してきた自然の営みに想いをよせた「92年夏の学校」はその幕を閉じた。

（文責 大宮）

2. 9月例会のお知らせ

今月の例会は9/12(土)と9/26(土)の2回行う予定です。

9/12 発表者 野上道男氏(都立大)「未定」

(CGを用いて日本の植生帯の変化についてシミュレーションしたものの報告)
青木賢人(学芸大・研)「中央アルプス伊那川最上流域の地形発達史」

9/26(予定) 関口辰夫氏(国土地理院)「未定」

原田暁之氏(アイ・ヌー)「未定」

(多雪山地にみられる筋状地形について、その形成プロセスを中心におはなしして頂くことになる予定です)

会場はいずれの会も東大理学部(地理学)で、15:00から行う予定です。教室については当日、理学部棟の入り口に掲示して置きます。

3. 新入会員の紹介・住所変更

転居、所属の変更や会員名簿に誤りがありましたら事務局までお知らせください。最近、あて先不明で返送される通信が増えています。住所変更の際には必ず事務局までご一報ください。

4. 会費納入のお願い

会費納入ありがとうございます。引き続き受け付けていますのでまだの方はお早めをお願いします。納入状況の照会などありましたら、往復ハガキで事務局までご連絡ください。

寒冷地形談話会 東京0-171342 1,500円/年

5. 古今書院からのお知らせ

本年度の地理評2号が「極地と高山の地形特集号—世界の周氷河環境の中での日本の位置づけ—」となっています。まだお持ちでない方は一般の書店から注文できますのでどうぞ(先月の通信に詳しい内容が載せてあります)。

また、9月4日には多くのみなさんのお手を煩わせた山の本『山の自然科学』(小泉武栄・清水長正編)が出版される予定です(¥2,400の予定)。これまでにない内容の山の本に仕上がりました。ぜひお読みください。